廃石膏板のリサイクル推進へ

チヨダウーテなどが全国組織

Fクレスト会

石膏ボードメーカーのチヨダウーテが開発したフッ素不溶化剤「Fクレスト」やリサイクル石膏を利用した中性固化剤「エコハード」の普及、廃石膏ボードのリサイクル技術に関する情報の共有化などを目的として、中間処理業者を正会員とする全国組織「Fクレスト会」が設立した。

西川宝三会長

先月28日に都内で行われた発起会には、全国から中間処理業者などの関係者が詰め掛け、西川宝三氏（三久建設社長）が会長、大嶋武氏（北清企業社長）が副会長、発起人の西野博次氏（阪和興業）が監査に就任した。

西川会長は「建設会社として8年前に廃石膏ボードのリサイクルを始めた。石膏中のフッ素含有の課題をきっかけとして、縁があってチヨダウーテと共同研究を進めてきた。今後は会員企業と一緒になって取り組んでいきたい」、大嶋副会長は「会長のサポート役をしっかり務めたい」とあいさつした。

発起会には多数の関係者が詰め掛けた

Fクレストは主成分のリン酸カルシウム塩がフッ素と反応して難溶解性のフッ素アパタイトとして結晶化する。廃石膏ボードのほか、汚染土壌やふるい下残さや廃水などに含まれるフッ素を不溶化させる効果がある。同社は富山高等専門学校などとともに技術開発に着手。今年8月から、四日市工場（三重県）で本格的な生産を開始した。

エコハードは半水石膏の持つ水和反応を利用して、非自硬性の建設汚泥や浚渫土などの含水比を下げて再び使用できる状態にする技術。四日市、千葉工場（千葉県袖ケ浦市）での生産体制を整備した。

中性固化剤のA種は原料にリサイクル石膏も使われている。現場の状況に応じ、高分子凝集剤などを原料にした造粒剤のB種と組み合わせて使用する。セメント、石灰系固化剤に比べ、中性や再掘削できる、短時間で反応するため現場でストックヤードがいらないといった利点が挙げられる。

Fクレスト、エコハードを併用することで中性固化剤の低コスト化が期待できるという。

事業スキームについて紹介したチヨダウーテ環境事業本部の平田富太郎本部長は「中性固化剤が指定された公共工事などに供給できる体制を整えたい。会員企業からエコハードの注文があった際には、その中間処理施設で製造されたリサイクル石膏を原料に利用するなどの連携が期待できる。さらに、当社の生産拠点がない地域では焼成設備を持つ企業とのパートナーシップなども検討したい」と語った。

同会は今後、定期的な勉強会なども開催するという。問い合わせは、事務局（チヨダウーテ環境事業本部、☎059・361・4976）まで。

平成23年12月5日
週刊循環経済新聞